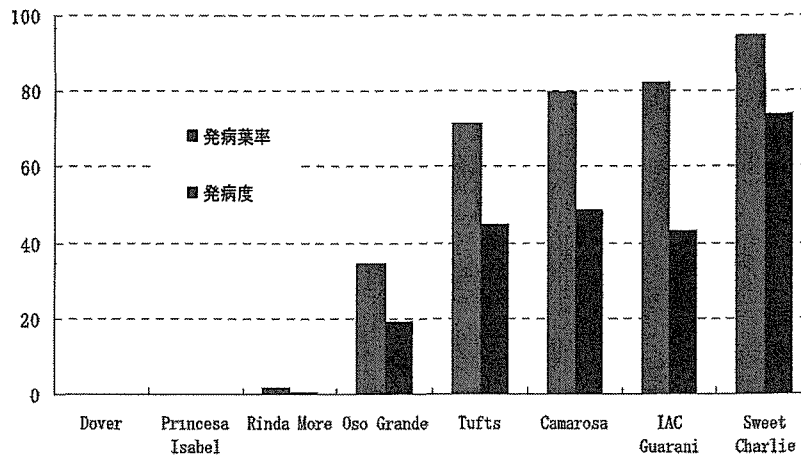


○ 佐藤俊次・Gregorio Bozzano*

パラグアイにおけるイチゴペスタロチア病、うどんこ病に対する品種間差異

Sato, S. and Bozzano, G : Difference of Varieties Against Pestalotia disease and Powdery mildew of Strawberry in Paraguay
パラグアイのイチゴ栽培は露地栽培であり、降雨が多い時期は初確認されたペスタロチア病が多発生し、晴天が続く時期はうどんこ病の発生が多い傾向にあった。イチゴペスタロチア病に対する品種間差を、接種試験により検討するとともに、品種比較試験圃場における発生状況を調査した。有傷接種の場合3供試菌株に対して病原性が認められ、小葉、葉柄、ランナーとも病斑の伸展が確認された。無傷接種では品種によって発病差がみられ、Tufts, Summer Berry, Camarosa, Sweet Chalei は発病し、Dover, Rindamore は発病しないか、発病してもその程度は軽かった。品種試験圃場では、Dover, P.Isabel は発病を認めず、Rindamore はごくわずかの発生であり、抵抗性を示すことが判明した。Tufts, Summer Berry, Camarosa, Sweet Chalei は葉での発病程度が高く、一般圃場においても本病による枯死株が認められることから感受性品種であることが判明した。うどんこ病に対してはTufts, Austriaca など10品種は発病を認めなかったが、Dover, Reiko など9品種は発病程度が高かった。

(大分植防協、*IAN(Paraguay))



イチゴペスタロチア病の発生と品種との関係 (2000, 10)